

イデックスオイルレポート ~For a month~

2022年12月1日作成 (株)新出光

【月次概況】

●第1週、週末11/4のWTI原油は、先週比4.71ドル高の92.61ドルとなりました。米労働省が4日朝方に発表した10月の雇用統計によると、失業率は3.7%と前月から0.2ポイント悪化。FRBによる金融引き締め政策が緩和されるとの観測が強まったことで米長期金利が低下し、対ユーロでドル安が進行。ドル建てで取引される原油の買いを支えました。また、米株価が堅調に推移する中、株式と並んでリスク資産とされる原油にも買いが入りました。今週は、イラクがサウジアラビア攻撃を計画している可能性があるとの報道や、米原油在庫量の予想に反して大幅な取り崩しとなったことを背景に、エネルギー需給逼迫懸念が高まりました。

●第2週、週末11/11のWTI原油は、先週比3.65ドル安の88.96ドルとなりました。米労働省が10日発表した10月の消費者物価指数(CPI)は、前年同月比7.7%上昇と、伸び幅は4カ月連続で縮小。市場予想8.0%上昇を下回り、今年1月以来9カ月ぶりの低水準となりました。FRBが利上げペースを年内にも減速させるとの見方が台頭し、米長期金利が急低下。これを受け、ドルが主要通貨に対して下落し、ドル建てで取引される原油の割安感が高まり買われました。一方、北京を含む中国の主要都市で新型コロナウイルスの感染が拡大。原油輸入大国である中国の経済活動鈍化に伴うエネルギー需要減少の観測が強まり、相場は上げ幅を縮小しました。

●第3週、週末11/18のWTI原油は、先週比8.88ドル安の80.08ドルとなりました。セントルイス連邦準備銀行のブラッド総裁は17日の講演で、インフレ率を目標の水準にするためにはFRBは大幅利上げを継続する必要があると表明。セントルイス連銀が考える適切な政策金利は5%程度だが、より厳格な場合は7%以上もあり得るといふ。この発言後、米長期金利の上昇に伴い対ユーロでドル高が進行。ドル建てで取引される原油の割高感から売りが膨らみました。また、中国国家衛生健康委員会によると、中国本土で16日に確認された新型コロナウイルス新規感染者数は2万3132人と、前日から3073人増加。急速な感染拡大が続く、石油輸入大国である中国のエネルギー需要減少が懸念されたことも相場の下げ幅を広げました。

●第4週、週末11/25のWTI原油は、先週比3.80ドル安の76.28ドルとなりました。米メディアによると、先進7カ国(G7)や欧州連合(EU)は、ロシアのウクライナ侵攻に対する追加制裁として、ロシア産石油の取引上限価格の設定を検討。ロイター通信はEU外交筋の話として、G7が上限を65~70ドルにすることを検討していると報じました。これは現在の取引価格をやや上回ることから、取引量は抑えられないとの見方が広がり、売りが先行しました。また、米エネルギー情報局(EIA)が同日に発表した12~18日の米ガソリン在庫が310万バレル増加。加えて、経済協力開発機構(OECD)が前日、2023年の世界経済成長率が2.2%に鈍化するとの見通しを据え置いたことも世界的なエネルギー需要減少観測につながり、相場は一時76ドル台まで下落しました。

	11月平均	WTI原油	84.39ドル	前月比	▲2.64	為替 1ドル	143.48円	前月差	▲4.71
--	-------	-------	---------	-----	-------	--------	---------	-----	-------

日付	補助金	変動幅	変動幅
11/1~11/2	36.4	-1.5	-1.5
11/3~11/9	36.3	-2.5	-2.5
11/10~11/16	36.3	+1.0	+1.0
11/17~11/23	32.3	-3.5	-3.5
11/24~11/30	25.7	-6.5	-6.5

		0.5HPP	ENEOS LS船用燃料油基準価格	
メニュー価格推移 平水湾内T/S持ち届け (サイト60日)	2022年7-9月C重油決定価格	114,000	120,120	(114,000(メニュー)+6,120(プレミアム))
	2022年10-12月C重油決定価格	102,770	110,950	(102,770(メニュー)+8,080(プレミアム))
	2022年10-12月C重油決定価格 決定価格7-9月比			(メニュー)+ (プレミアム)

		適合油価格	A重油
内航燃料油価格推移	2022年7-9月C重油決定価格	125,000	117,400
	2022年10-12月C重油決定価格	115,750	
	2022年10-12月C重油決定価格 決定価格7-9月比		

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格	通関CIF	為替レート	原油CIF価格
			円/kl	ドル/bbl	円/ドル	前月比
	22/10	9桁速報	96,684	105.96	145.07	-827
	22/11	最終予測	91,811	99.40	146.84	-4,873
	22/12	展望	89,796	98.45	145.00	-2,015
	23/1	展望	85,665	98.28	140.00	-4,131

【次世代エネルギー】 <INPEX、国内でブルー水素・アンモニア製造実証 CCUS・発電利用も>

INPEX(東京都港区)は11月15日、「ブルー水素・アンモニア製造・利用一貫実証試験」実施に向けて、坑井掘削と地上設備建設のための最終投資決定を行ったと発表した。同実証は、同社保有の「新潟県柏崎市東柏崎ガス田平井地区」に実験施設を建設して行われる。国産の天然ガスを用いたブルー水素・アンモニアの製造、国内枯渇ガス田でのCCUS、さらに発電利用までを一貫して実証する日本初めての試みとなる。新設する施設では年間700トンの水素を製造し、一部をアンモニア製造に、残りを水素発電に使用する。原料となるのは同社が新潟県内で生産する天然ガスで、輸送には既存のパイプラインを使用するという。水素やアンモニア製造の際に副次的に発生するCO2は、ガス生産が終了した東柏崎ガス田平井地区の貯留層に圧入(CCUS)し、製造される水素・アンモニアをCO2の大気排出を抑えたブルー水素・アンモニアに転換する。同社は同実証で得た成果をもとに、新潟県において、天然ガス田および既存インフラを活用したブルー水素製造プラントを建設し、2030年頃までに商業化を目指すとともに、海外における、ブルー水素・アンモニアの活用とCCUS/CCUプロジェクトの検討を進める考えだ。なお同実証における水素・アンモニア製造およびCO2回収は、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の「燃料アンモニア利用・生産技術開発/ブルーアンモニア製造に係る技術開発」に採択されている。CO2の地中貯留の実施・評価は、エネルギー・金属鉱物資源機構(JOGMEC)との共同研究「天然ガス利用等における低炭素化を目的とした国内枯渇ガス田を活用したCO2貯留可能量把握に関する実証試験」として実施する。

出典 ①<https://www.kankyo-business.jp/news/8917a8d2-2737-4508-81ec-9011d342f6a3> ②<https://finance.yahoo.co.jp/news/detail/20221115-00000109-reut-bus-all>

【12月価格変動要因】

●需要：中国の主要都市で新型コロナウイルスの感染が拡大。ロックダウンに伴い中国の経済活動鈍化に伴うエネルギー需要減少の観測が強まっています。ゼロコロナ政策の解除がない限りは原油価格は反発しにくい。12月中に中央経済工作会議が予定されていますが、ゼロコロナ規制の政策修正があるか注目されます。

●供給：12/5のロシア産原油の輸入規制に先んじて原油の購入が先行し足元は需給緩和しています。焦点となるのは12/4のOPEC会合ですが非公式ながらOPECプラスで現状の生産枠を維持すると未確認の報道が伝わっており追加減産へ警戒感はやや軟化しています。

●リスク資産：12/15のFOMCに注目、足元の米国の消費者物価指数は、上昇頭打ちへの期待感が出ており積極的な利上げ政策のペースダウンが期待されている。一方で具体的な利上げ幅の減速に向かうには雇用と物価の経済指標を都度確認する必要がある行き過ぎた期待感も禁物です。

●テクニカル：直近は原油価格の下落が続くプレントは節目となる80ドル近辺まで下落しているが、この水準はサポートとして意識されやすい。仮に今後下回る場合100週移動平均や200週移動平均といったテクニカルラインが意識されやすくなる。加えてヒストリカルで見ると21年の12月水準66ドル~69ドルの水準あたりは下値のサポートラインとして意識されやすい。

●地政学：ロシアはウクライナによる攻撃を理由にウクライナ産穀物を輸出する合意の履行を停止するなど、西側諸国への揺さぶりを強めている。気温低下のタイミングで、欧州のエネルギーインフラにも破壊工作を行う可能性が懸念される。

【12月価格変動要因】 (単位:US/bbl)		
	Brent	WTI
High	100	90
Average	85	80
Low	78	72

日付	国	12月経済指標カレンダー	日付	国	12月経済指標カレンダー
1	米	10月個人消費支出(PCEデフレーター)	14	米	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長、定例記者会見
1	米	11月ISM製造業景況指数	15	欧	欧州中央銀行(ECB)政策金利
2	米	11月非農業部門雇用者数変化	15	米	11月小売売上高
2	米	11月平均時給	15	欧	ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、定例記者会見
2	米	11月失業率	16	欧	11月消費者物価指数(HICP、改定値)
5	米	11月ISM非製造業景況指数	22	米	7-9月期四半期実質国内総生産(GDP、確定値)
7	欧	7-9月期四半期域内総生産(GDP、確定値)	23	米	11月個人消費支出(PCEデフレーター)
13	米	11月消費者物価指数(CPI)	23	米	11月新築住宅販売件数
14	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)、終了後政策金利発表			